

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君の登壇を求めます。

○7番（馬場勝徳）

最終質問者として落ちついた感のあります、7番議員馬場です。

私は、通告しておりましたサマースクールの現状について質問をいたします。

過日、当町小学校の先生と学校教育の現状についてということで懇談する機会を得ました。その中の一つですけれども、本年度、サマースクールの後、2学期の教育内容がスムーズに推移しており、先生方のやる気も上昇機運を感じるということができていますとのことでした。サマースクールにつきましては、6年ほど前より学力向上推進の一方策として夏休みを利用して小学校6年生と中学3年生を対象とした算数、数学に特化した授業の実施であると理解をしておりました。さらに言えば、以前はゆとり教育ということでやってきましたが、どうしても学力低下は否めないというところで、また方向転換され、この改善としてそのためのサマースクールであったろうとも思いますが、過日の小学校の先生の話しぶりから、自信に満ちた現状と見受けたところであります。

そこで、良好なことであるなら、よいことは継続するにこしたことはないと考えますので、サマースクールの現状について質問する次第であります。

1つ、本年度実施された当町小学校と中学校それぞれの内容について尋ねます。

2つ、学力向上及びその他についてどのような評価をされているのか、伺います。

3つ、今後どのような取り組みをしていくのか、その方向性についての町の考えを問うものがあります。

その他数点についてお尋ねしたいことがありますので、質問席で行います。よろしく願いいたします。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

馬場議員の御質問にお答えいたします。

サマースクールについてのお尋ねでございますけれども、本町では夏季休業期間中に実施しております算数・数学講座と呼んでおりますので、これについてお答えしたいと思います。

一昨年にも馬場議員のほうから御質問いただいておりますけれども、この事業は今年度で5年目になります。御承知のとおり、算数、数学の学力向上が主たる目的でありまして、論理的な思考、物の見方、考え方をより深めること、何より児童・生徒の個別の実態に応じてきめ細やかに指導することで算数、数学の学力を向上することが目的でございます。

また、2学期のスタートに向け、夏季休業終了直前の生活と学習のリズムを立て直すことで、児童・生徒の学習習慣を定着させることも大きな目的でございます。

事業の内容は、町内全ての小・中学校で夏季休業中の5日間、1日3時間の講座を実施しております。対象の学年は、小学校が5、6年生全員、中学校は数学と英語を実施しておりまして、1年生全員と3年生の希望者で実施しております。

昨年から大学生と高校生のボランティアが指導支援に当たってくれております。本年度は5日間で延べ大学生68人、高校生21人が児童・生徒の指導に当たってくれました。

成果としましては、小学校では全てのコースにおいて実施後に行ったテストのほうが事前テストの正解率を上回り、算数の見方や考え方などの技能を伸ばし、理解を深めさせることができた

という回答が来ております。中学校では、数学、英語ともに意欲的に生徒が取り組み、自主的に学習ができ、習熟度別のプリントを多種類準備したことで自分のレベルに合った学習ができた。また、複数の教師が身近で質問に答える体制があり、気軽にヒントをもらうことができたなどの事後の学習意欲の向上につながったという報告が上がってきております。

今後も夏季休業中の事業としてさらに充実、発展させていく考えでございます。

以上でございます。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

幾つか簡単なことを質問いたします。

ちょうど2年前、教育長おっしゃったように、私、サマースクールについて質問をしました。というのが、それまでいわゆるゆとり教育というもので進んできて、みんな手をつないで仲よくゴールインと、そういう平等というような考えが強かったように思うんですが、学校教育はそれでやってきた。しかし、一旦社会に出れば、途端に競争、もう弱い者は食われてしまうというような現実が待っております。その乖離が余りに大きいと、とてもじゃないけれども、やっていられない。さらには、学力の低下も世界で比べた場合、ずっと下になってきよるということで、慌てて——失礼な言い方ですが、少し慌てたんだろうと思います。何とかせやんというところで、多分方向を切りかえたんだと思うんですが、何とか学力アップの一助として夏休みを利用したサマースクールができないかということであろうと思いますが、2年前にお尋ねしましたときに教育長からこういう答えをいただいております。その目的と効果、評価はどうであったかと尋ねましたときに、算数、数学に対する捉え方が高まり、意欲的になった、児童・生徒同士の人間関係の向上が見られた、夏休み中の生活のリズムが正しくなった。それから、先生方においては教師の指導力向上、教職員の組織力向上が図られたというお答えをいただきました。非常にいいことであるというふうにそのとき思いましたので、当然これは続けていただいておりますので、また改めて質問しよるわけです。

そこでお尋ねなんですが、目的と効果、評価についてはもう一度聞きたいのですが、いかなるものでしょうか。大体2年前に聞いたお答えと余り変わりませんか、伺います。

**○議長（神山章憲）**

教育長。

**○教育長（吉住政子）**

変わっておりません。ただ、この事業が5年前から3年間は県の事業として、算数・数学強化講座として始まりまして、それを広川町は手を挙げて受けまして、3年間続けてまいりました。そういうことで、前教育長の時代はその最終年度ぐらいであったろうと思っております。その後、非常に効果のある事業であるということで、町単独で予算を立てていただきまして、継続しているわけでございます。

そういうことで、目的も変わりませんが、少し教科内容とかは町独自の内容に変えております。例えば、中学校の英語を入れるとか、それから次年度はもっとたくさんの教科も取り組んでみたいとかも上がっておりますので、そのあたりはまたこれから広がっていく可能性もございます。

以上でございます。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

当初は希望者になっていたんですかね、このサマースクールを受ける方は。どんなものでしょう。今は全員、中3全員、5、6年生全員と聞いておりますが、そういうことでいいでしょうか。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

もともと学年を限定しまして、全員でしております。なぜかといいますと、やはり非常に児童・生徒の中には習熟度といいますか、学びの身につくぐあいに差がございますので、このような時間を利用して、その習熟度に応じた指導をするということで始まっております。そういうことで、学年だけ限定いたしまして全生徒、中学校につきましては、もともと非常に学習の厳しい生徒を出して指導しておりましたので、それとあわせて、ある学年は希望者を入れるという形になっております。例えば、3年生は希望者という格好で、1年生は全員と。ですから、原則、特定学年の全員でございます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

先生方におかれましてはどんなふうですか。例えば、5、6年生が対象であれば、5、6年の先生が同じく授業と同じように自分たちだけですか、先ほど大学生、高校生のボランティアを受けたというふうにおっしゃいましたが、もし受けたとすれば、その方たちを具体的な方法としてどういうボランティアの方に入っていたら、指導の方法をされたのか、伺います。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

この算数・数学強化講座は個別指導でございますので、たくさんの人手が必要なわけでございます。ですから、該当学年以外の職員も全て原則としてつくという形でしております。授業ではございませんで、少人数指導でございますので、1クラスに生徒が三十数人おりますので、その子供たちに対してできるだけたくさんの人をつけたいということで大学生、特に教職を目指す大学生、それから福島高校の高校生等をお願いしております。

高校生につきましては、もちろん教員を目指すわけでもございませんし、まだ若うございますので、いろいろ初歩的な指導とか児童・生徒の相談、励ましとか、そのような格好で支援してくれておりますし、大学生につきましては、かなり難しい問題とかについても教師と一緒にやって支援をするという形で入っております。

以上でございます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

後日、先生と懇談した後、じゃ実際どういうものか、評価を見せてくださいということで検証に行きました。そのときに、こういう写真をいただいたんですよ。小グループでやっております。6年生の授業だったそうです。これは聞きましたところ、私は6年生、5年生それぞれの先生が授業の延長としてやっておられるんだろうと思っていましたが、そうではなくて、1年生を受け持っている先生が6年生、あるいは5年生の授業に入ってやりましたということだったんですが、

それは本当なんですか。全員対象でしたと伺いました。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

全員でございます。子供たちに全職員がかかわっております。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

それぞれ1年生から6年生まで小学校で見ますと、担任を受け持っていらっしゃるわけですが、1年生の先生がずっとそれでやっていきよりますと、5、6年には何となくいきなりというのは難しい、今度6年生を受け持ってくださいとか、そういうふうなことは難しいと思うんですが、例えば、こういうサマースクールに臨むに当たって、そういうふうに全教諭が当たって指導したと、あるいは小グループ、五、六人のように写真に写っていますが、その中に入って個別指導、習熟度に応じてしたというふうなことなんですが、先生もそういうふうに学年を変わって授業をしたことでやる気が出たというふうに見るのはそういうところにありますと、私が話した先生はおっしゃるんですよ。それはそういうことなんでしょうか、間違いないでしょうか。どんなものでしょう。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

小学校の1年生から6年生まで担任しておりますけど、基本的に小学校の教員は全ての学年の内容を網羅しておりますし、指導もできます。全ての教職員が例えば6年生に入るという格好でプラスの面があるとしますと、一つは子供にとりましても、いろんな先生が自分たちを支援してくれると、非常に手応えがあると、喜ばしいということですかね、そういう意味でもありますし、それから、教師にとりましても、日常的にいろんな学年に入っておりますので、教師にとりましても非常にたくさんの子供を知ることができ、かかわることができて喜びが広がるということでございます。

感想がございしますが、よろしかったら次長のほうから申し上げますか。

○議長（神山章憲）

教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

それぞれ小・中学校、授業が終わりまして、子供たちの日々の記録、それと感想というふうな形でとっております。幾つか紹介をしてみたいと思いますが、中学校のほうの意見なんですが、わざわざ夏休みに面倒くさいなと思っていただけけれども、実際夏休みにこの問題を解き始めると、どんどん解けていって、あっという間に終わってしまいました、とても気持ちがよくて、今まで以上に数学が好きになりました。

それから、自分の苦手なところがわかった、簡単に求める方法を教えてもらったりして、2学期から頑張ろうという意欲ができたというふうな感想も出ています。

それから、プレテストという形で5日間、実際に行いました。1日が25日、台風が来ましたので、その日を除きまして4日間になったんですが、最初のテストは80点だったけれども、最後にやったテストは96点だったということで、点数が上がった、いろんな先生が丁寧に教えてくれて

よかったというふうな、たくさんの子供たちの感想が届いております。

○議長（神山章憲）

7 番馬場勝徳君。

○7 番（馬場勝徳）

後日、私が実際の検証をさせていただき行って行ったときに、そういう子供たちの自分の点数ですか、その結果と、それから今おっしゃった感想のあれを見せてもらったんですよ。全部が全部よかったばかりじゃなかったんですけど、私が見たところ、ほとんどの生徒が、5年生でしたけど、算数ですね、例えば目で見えるものとして点数が上がってるのを見せてもらいました。こういうふうにやればできるというふうなことが子供たちにわかったときに、その喜びといいですか、そっちのほうが大きいに思いますというふうなことをおっしゃってありました。それはわかるんですが、習熟度別にグループをつくってするとしますと、その生徒間の中で、例えば、いじける子供とか、そういうとのあれは少し心配したんですが、そういうことはない、考えんでもいいでしょうかね、そのあたりどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

おっしゃいますように、確かにその懸念はございます。そういうことで、実際には例えば、児童・生徒に選ばせるとか、自分が選んだ形で選ばせて、そしてじわりと軌道修正するとかいう格好でコースを決めるとか、いろんな配慮をしながら習熟度の場合は指導している状況でございます。

○議長（神山章憲）

7 番馬場勝徳君。

○7 番（馬場勝徳）

先生もそういうのに従事するということは、今までしていなかったのをそっちのほうに振り向けるということですから、かなりの労力を使うと思います。その自分の使う労力と、それから子供たちが生き生きとしてくる、その結果がわかったときの喜び、その成果を先生たちがいいほうにとっていただければ、これにこしたことはないと思うんですが、私の話した先生は、いや、大丈夫ですよ、先生たちのほうがむしろ生き生きしておると私は思いますというふうにおっしゃったんですよ。よそ行きの言葉かなとも思ったんですが、教育委員会はどんなふうに捉えてありますか。そこはそういうふうにやはりいいほうが多いんだというふうに捉えてありましようか、そこをお聞かせください。

○議長（神山章憲）

教育長。

○教育長（吉住政子）

私は全くそうであると思っております。

それから、文科省のほうで、ある大学に委託をしまして、今非常に子供たちの貧困ということが問題になりまして、経済的に厳しい家庭の子供の学力はなかなか伸びないということでテストの分析、全国学力・学習状況調査のテストを分析しまして、経済的に苦しい家庭の子供がどんな状況にあれば学力が伸びるかという研究をしておられまして、その報告書が上がっておりますが、その中の一つにやはり夏季休業中とかの、このような習熟度別の個別的な指導は非常に効果があるということが報告されております。

以上でございます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

では、サマースクールに従事された時間はどのくらいになりますでしょうか。1日3時間ほどぐらいかなと思うんですが、それをして掛けの何時というふうになりますと、合計どのくらいの所要時間であったのか、まずお聞かせください。

○議長（神山章憲）

教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

授業時数につきましては、夏休みの最後の週の5日間を予定しておりました。そのうちの25日の日は先ほど申しました台風で4日間になりまして、午前中の3こま、3時間ですね、を小学校のほうでやっています。中学校のほうは7日間です。数学と英語で、中学校につきましては8月の頭、3、4、5日の3日間、それから夏休みの最後の24日から28日までの、25日が台風ですので、7日間の3こまをやっております。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

夏の一番暑いときでの授業でありまして、今までですと、やはり子供たちにもちょっとつらいことがあったんじゃないかなと思うんですが、今エアコンがついていますよね。だから、その点は少し環境としては改善されたということを見ますと、つらいことばかりじゃないと思います。そっちに没頭せやん、従事する時間というのは確かに子供もつらいかもわかりませんが、点数も学力もアップするというので、私もいいほうであろうと思います。

何も点数がよくなればいい、学力が上がればいいということではなくて、継続して打ち込めるということが、この先ますます少子・高齢化が進んでいく中で、やはり町として生き残る、あるいは存続、繁栄とまではいかんでしょうが、継続して現状を維持できていくためには、子供を大事にする、子供の教育こそ私は大きな投資であろうというふうに考えます。もちろん、企業誘致も大事でしょう。しかし、これはおのずとほかからの条件というようなものがあって、ちょっとできる話じゃありません。そうしてみると、一番力を入れて、いわゆる町の力として生かすためには教育アップ、学力ももちろんアップ、それからそれに伴った人間力をアップすると、我慢する・生きる力をつくるというようなことを力を入れてやりますと、よそからもどんどん定住もふえましょうし、広川はやるじゃないかというふうな評価を得る一つの方法だと思います。それでまたサマースクール、2年前にしたことですが、いいことであればぜひ継続していただきたいし、そういう思いがありまして、また質問をさせていただきました。

きょう聞いた中では、私が懇談した先生が目をきらきらさせて、うれしそうに話してくれた先生の話が本当だということもわかりましたし、ぜひこれは継続して、先生もやる気を持って、教師の指導力向上、そっちのほうも非常に望めたというふうなことです。ぜひ続けていただきたいということでまとめまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。